

太陽光発電パネルの設置、その前に 反射トラブルをチェック!

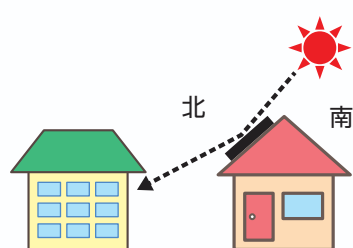
太陽光発電パネルの反射光が近隣へ影響を与える可能性があるため、それによって、近所付き合いの悪化や地域住民との衝突が起き、最悪の場合には裁判や太陽光発電設備の撤去につながる恐れがあります。太陽光発電設備を設置する際は、太陽光が反射して近隣迷惑にならないか十分に検討し、トラブルを回避するよう注意しましょう。



例えば、こんなトラブルが

CASE 1

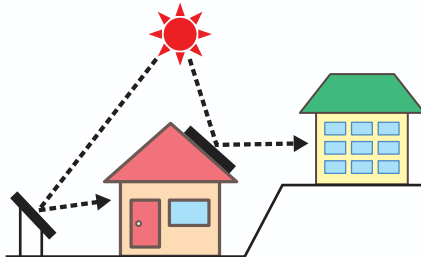
北側の屋根に
パネルを設置する場合



太陽光が低い角度で反射するため、隣家の窓に差し込みやすくなります。

CASE 2

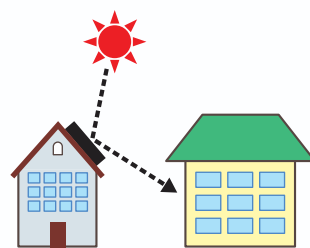
パネルより上に
隣家の窓がある場合



傾斜地にある住宅地やカーポートの屋根、また空き地などに設置する場合は、パネルが隣家の窓より低い位置になるため、反射光が差し込みやすくなります。

CASE 3

屋根が急傾斜な場合



急傾斜な屋根に設置すると、条件によっては反射光害が起きやすくなります。

トラブルを回避するために

設置前に施工業者と周辺環境を確認しましょう

太陽光発電設備によるトラブルを避けるには、設置位置などを事前に確認することが重要です。導入時には発電効率だけでなく、周辺住宅への影響を考慮して、設置前に施工業者と周辺環境を確認しましょう。



太陽光発電設備の設置の際、設置者には「必要な範囲で適正な対応をすること」が求められます。事前に近隣へ配慮することが、最終的には自身も含めた住環境を損なわない配慮となるので、設備設置の際はトラブル回避に留意した計画を策定しましょう。

